



2026年5月7日
東海電子株式会社

飲酒運転に関する市民意識調査

～約2万人の市民アンケート結果と、1,600人の飲酒運転関連当事者の回答から見える
飲酒運転問題とアルコールインターロックの社会認知の実態～

自動点呼システム、運行管理システム、安全運転管理システム、労働安全衛生システムを開発・販売する東海電子株式会社（本社：静岡県富士市、代表取締役：杉本哲也）は、このたび、飲酒運転に関する市民意識調査を実施いたしました。

1. 2万人アンケート実施の背景

当社では、飲酒運転防止及び、再発防止に関する市民意識の現状を把握することを目的とし、このたび、不特定の約2万人の方を対象にアンケート調査を実施しました。本調査では、一般生活者・消費者が飲酒運転という社会問題についてどのように考えているのかを聞き、また一步踏み込んで、飲酒運転経験の有無についても質問し、さらに飲酒運転当事者や家族と思われる方にも追加で質問を設け、飲酒運転に関する多面的かつ包括的な意識調査を行いました。

2. 2万人アンケート（2種類のアンケート）の総評

<設問1～12 スクリーニング調査（n=19,779）>

約4人に1人（23.1%）が飲酒運転を目撃した経験を持ち、79.1%が年間約2万件の摘発件数を「多い」と感じている。飲酒運転は市民にとって身近かつ深刻な問題として認識されており、対策強化への期待は高い。自身または家族が飲酒運転で指導を受けた経験者は合計6.3%、飲酒行動で悩む身近な人がいると答えた割合も4.7%（923人）おり、問題が当事者の周囲にも広く波及していることが示された。その一方で、アルコールインターロックを「知らない・聞いたことがない」と回答した割合は83.2%にのぼり、装置の認知普及が急務であることが浮き彫りになった。

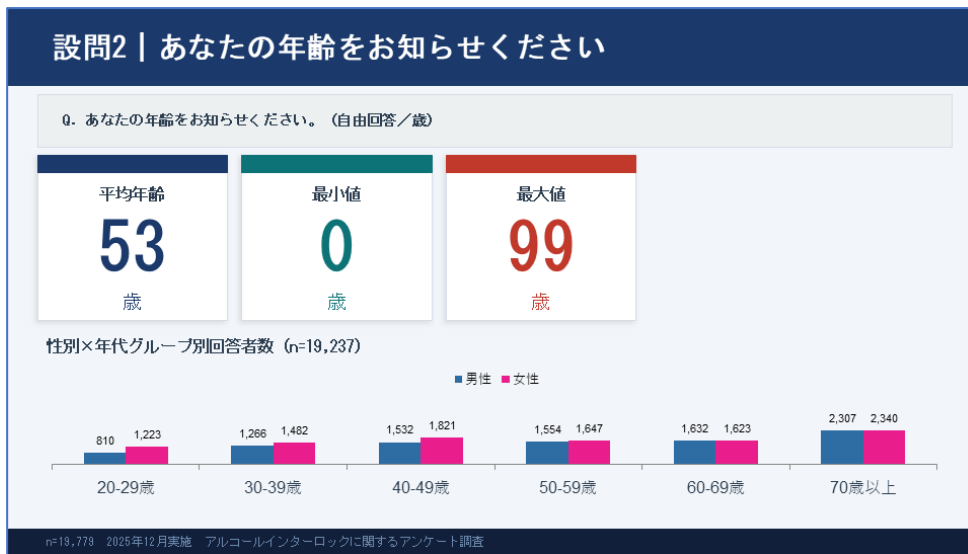
<Q1～Q15 追加調査（n=1,600：本人または家族に飲酒運転経験がある回答者）>

飲酒運転検挙者へのインターロック義務化については71.2%が賛成（強く賛成37.9%+賛成33.3%）しており、再犯防止策としての制度化を求める声は強い。購入意向については60.6%が前向きだが、最多支援ニーズは「費用補助（公的支援）」45.1%であり、価格補助策が普及の鍵を握る。

飲酒問題が家族関係に「ひびが入った・入る可能性がある」と答えた割合は69.2%、精神的健康への影響を感じた割合も51.9%にのぼり、飲酒問題は当事者を超えて家族全体を巻き込む社会課題であることが明確になった。「すぐにでも相談したい」「インターロックを取付けたい」と答えた積極的支援希求層は合計30.3%。専門医療機関の情報提供（41.1%）や家族向けカウンセリング（35.9%）の充実とあわせ、インターロックを核とした包括的な支援体制の構築が急がれる。

3. アンケート結果（抜粋）

1) 回答者の年齢分布



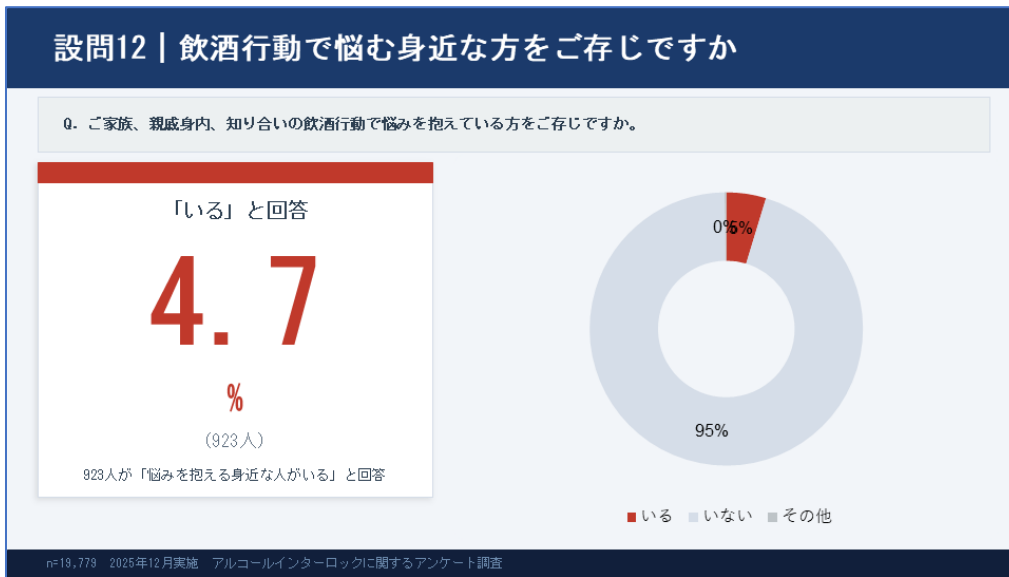
2) 飲酒運転経験率（本人と家族）



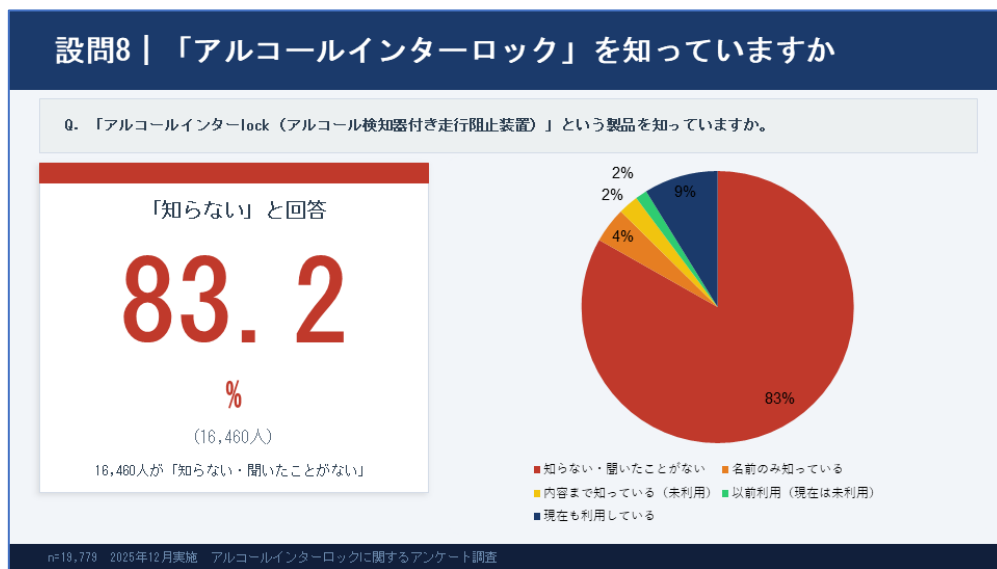
3) 飲酒運転経験率（本人、家族以外）



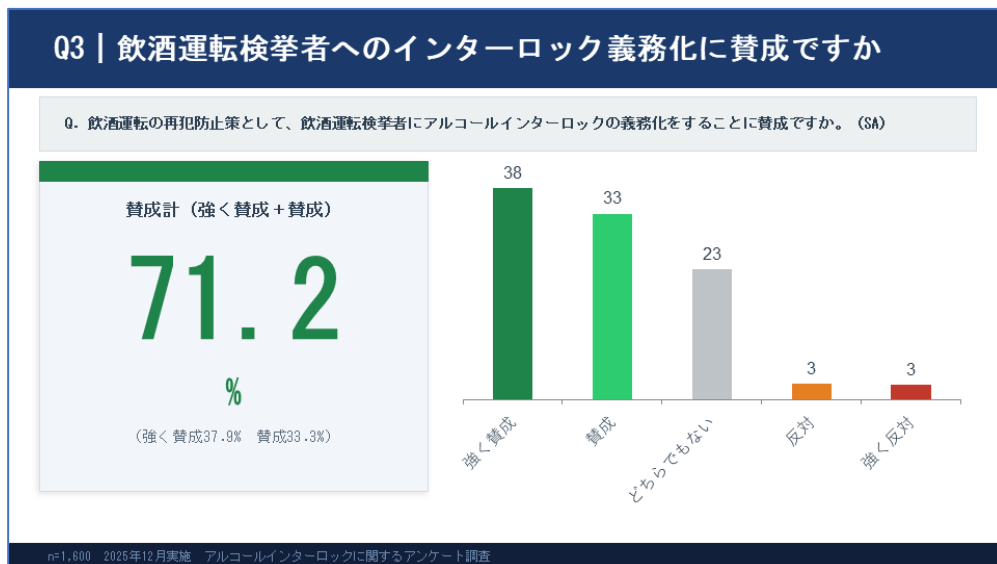
4) 家族の飲酒行動（飲酒運転行動）について



5) アルコールインターロック装置について



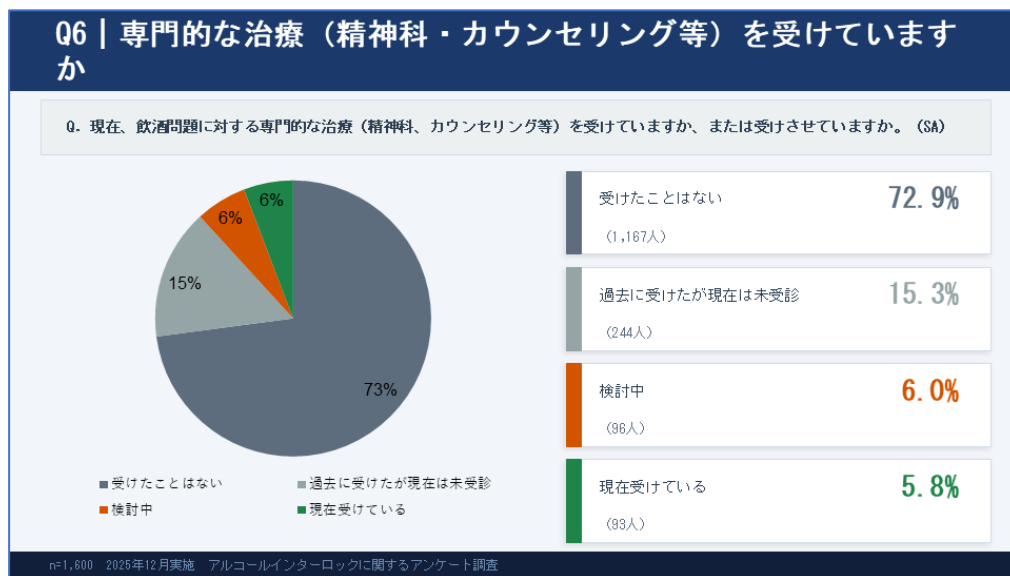
6) 飲酒運転検挙者へのアルコールインターロック義務化について



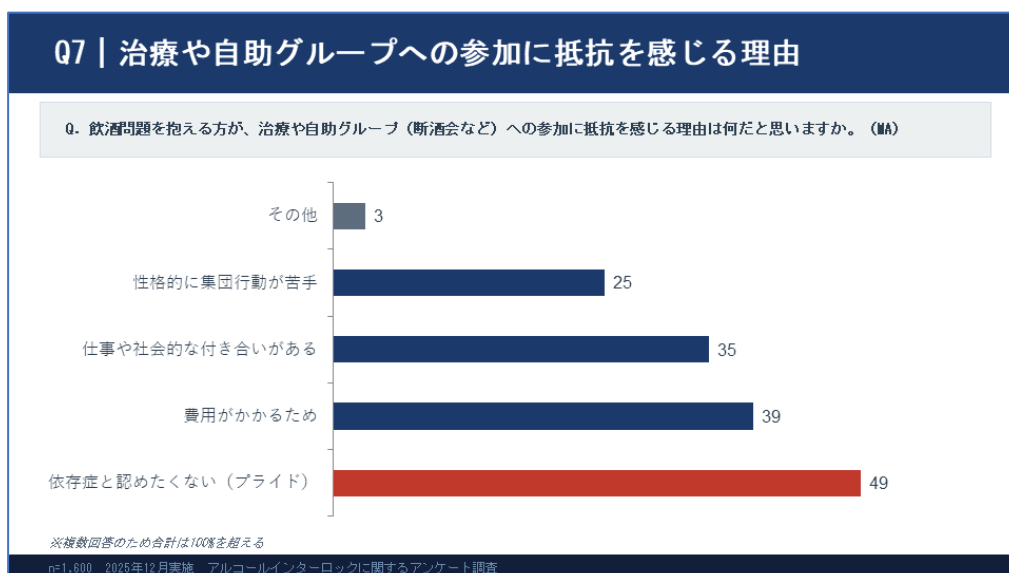
7) 飲酒運転者の再犯可能性について



8) 治療について



9) 治療や自助グループについて



4. 今後に向けて

本調査では、飲酒運転や飲酒に関する問題について「誰かに相談したいと考えたことがあるか」を尋ねた設問において、「相談をしたい」「実際に相談したことがある」と回答した割合が約3割にとどまる結果となりました。

一方で、約7割の方は、飲酒運転や飲酒問題について認識や不安を抱きながらも、「相談するまでには至っていない」という状況にあることが明らかとなっています。この結果は、飲酒問題が表面化しにくく、周囲からも見えにくい形で抱え込まれている可能性を示唆しています。

飲酒運転や飲酒問題は、本人が問題に気づいていたとしても、「相談するほどではない」「誰に相談すればよいのか分からない」「相談することで状況が悪化するのではないか」といった心理的なハードルによって、行動に移されないまま放置されてしまうケースが少なくないと考えられます。その結果、問題が深刻化してから初めて表面化し、事故や違反といった形で顕在化してしまうリスクも否定できません。相談に至っていない7割という数字は、そうした“見えにくい危険性”が社会の中に一定程度存在していることを示していると思われれます。

今般のアンケート結果により、飲酒運転をする人の行動心理、飲酒運転をする人への社会の認知状況が一定程度明らかになりました。

今後は、飲酒問題を抱える本人だけでなく、相談に踏み切れず不安を抱え続けている層にも目を向け、分かりやすく、心理的な負担の少ない形で再発防止の選択肢を提示していくことが求められます。

アルコールインターロックのような仕組みは、本人や家族が「何らかの対策がある」「選択肢が存在する」と認識できることが、問題の深刻化を防ぐ一助となる可能性があります。

飲酒運転の再発防止は、個人の意思や努力だけに委ねるべき課題ではなく、社会全体で支え合いながら取り組むべき課題です。

相談に至っていない多くの不安を可視化し、本人や家族が安心できる選択肢を増やしていくことが、事故を未然に防ぎ、飲酒運転のない社会の実現につながると考えられます。

行政・政策担当者、アルコール依存症治療・ケア・支援業界の方、交通事故研究者、飲酒運転研究者、飲酒運転をする家族をもつ方々へ。当該アンケートの詳細データご希望の方は以下へご連絡ください。

本件に関する問い合わせ先：東海電子株式会社 IL 推進事業部

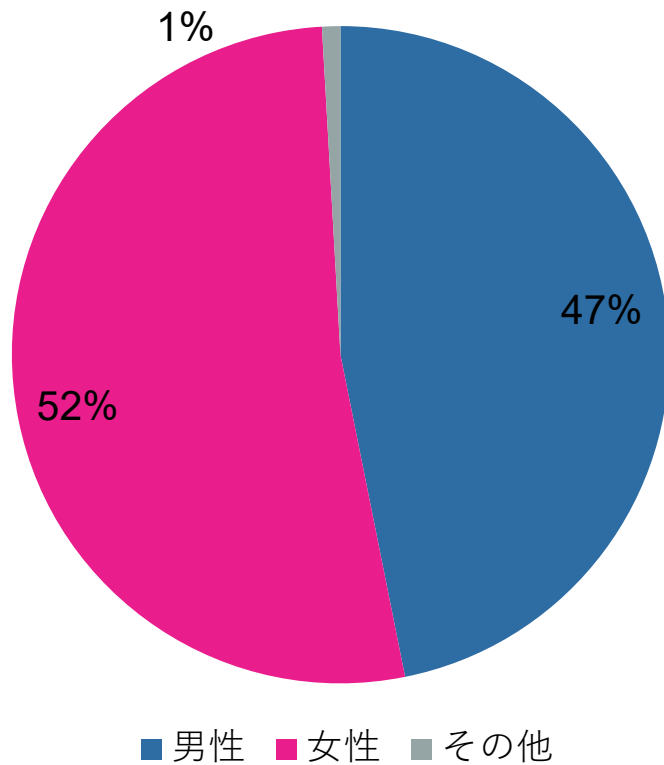
東京都立川市曙町 2-34-13 オリピック第3ビル 203

E-mail: alcoholinterlock@tokai-denshi.co.jp

<https://alcohol-interlock.com/>

設問1 | あなたの性別をお知らせください

Q. あなたの性別をお知らせください。



男性

46.8%

(9,259人)

女性

52.2%

(10,333人)

その他

0.9%

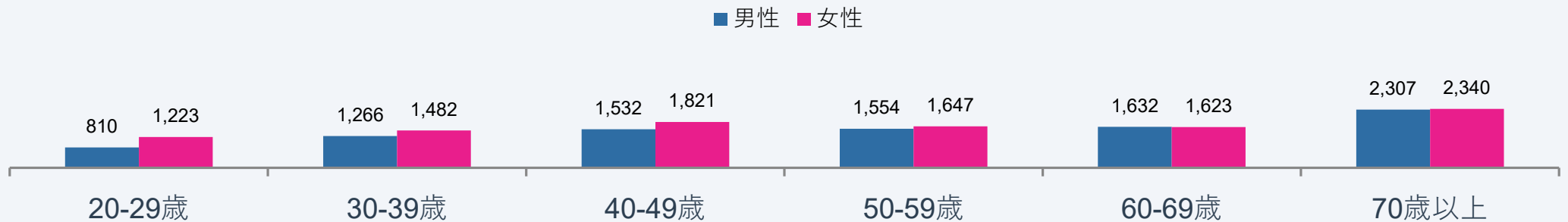
(187人)

設問2 | あなたの年齢をお知らせください

Q. あなたの年齢をお知らせください。（自由回答／歳）



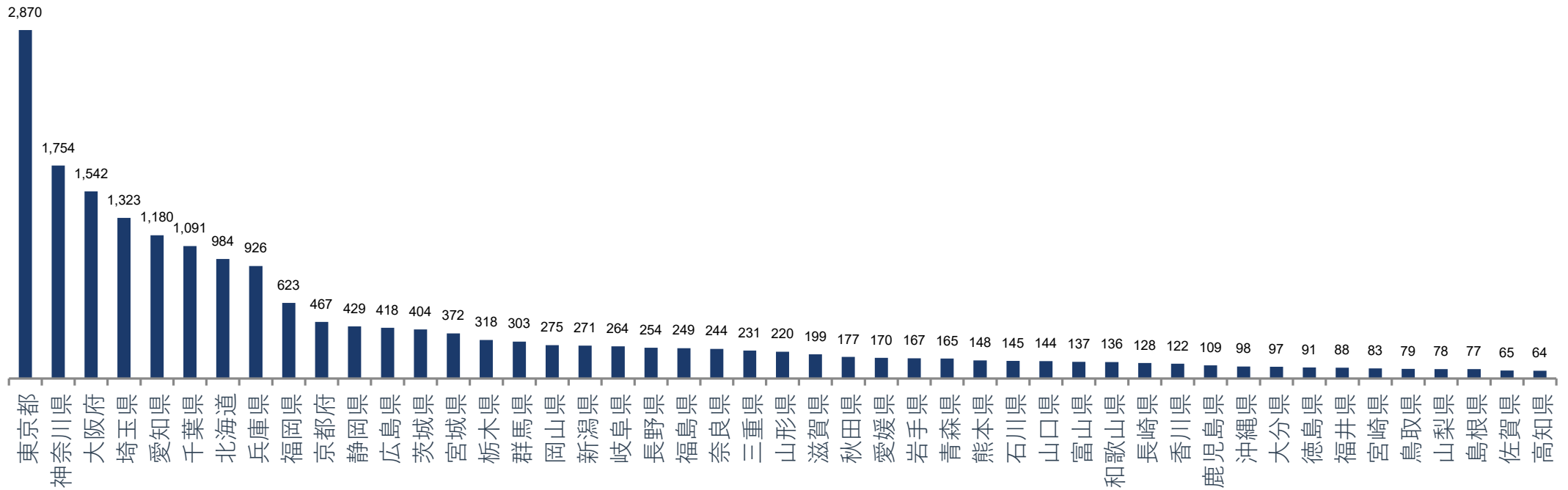
性別 × 年代グループ別回答者数 (n=19, 237)



設問3 | お住まいの都道府県をお知らせください

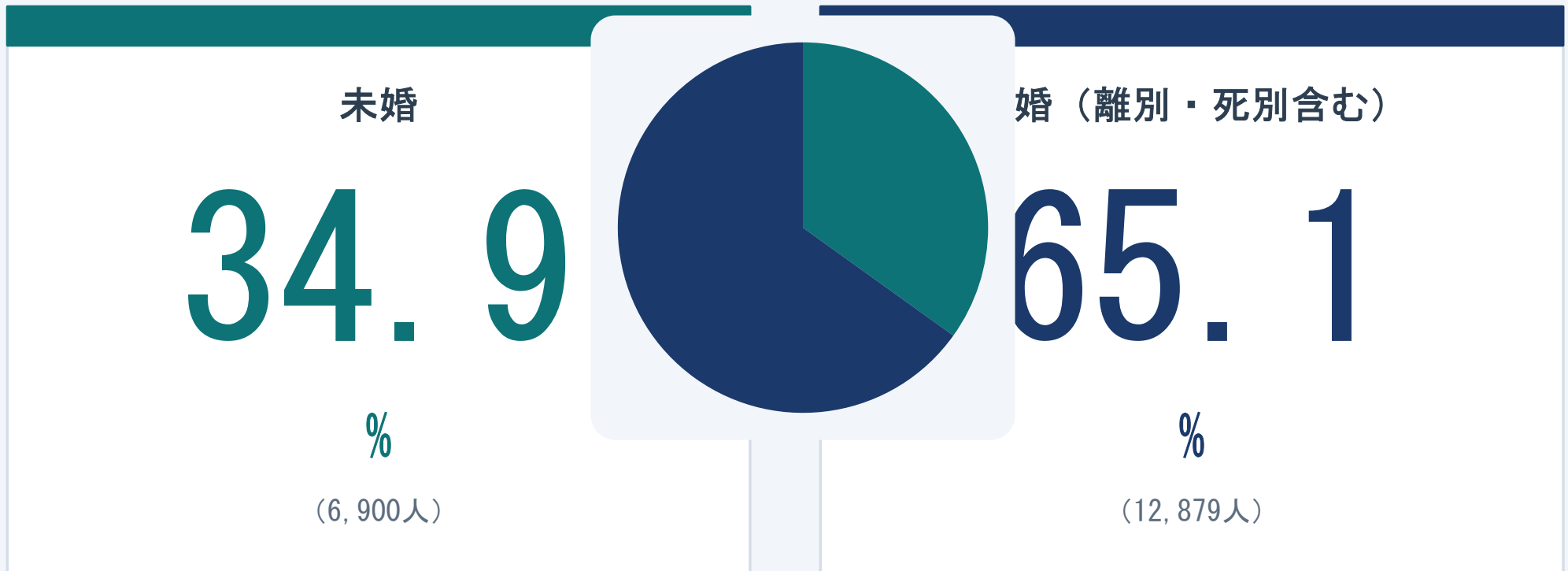
Q. あなたのお住まい（都道府県）をお知らせください。

回答者数（人） 全47都道府県 ※回答数の多い順



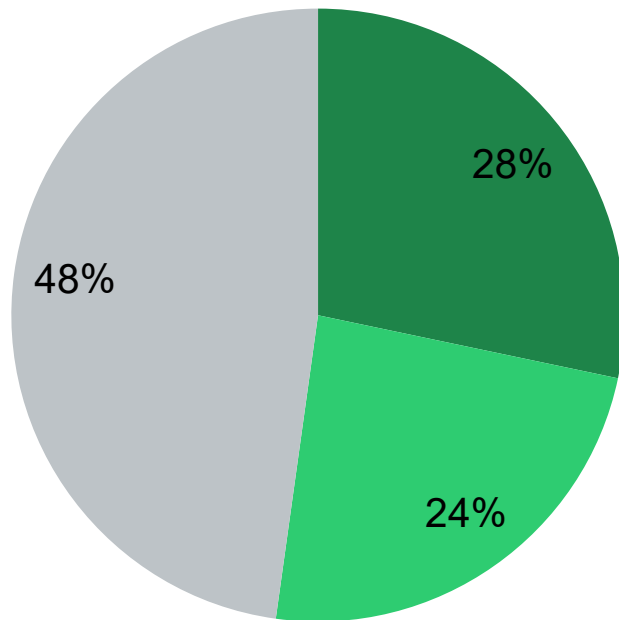
設問4 | 婚姻状況をお知らせください

Q. あなたは結婚していらっしゃいますか。



設問5 | お子さまはいらっしゃいますか

Q. あなたにはお子さまがいらっしゃいますか。



- 同居している子どもがいる
- 同居はしていないが子どもがいる
- 子どもはいない

同居している子どもがいる **28.3%**
(5,603人)

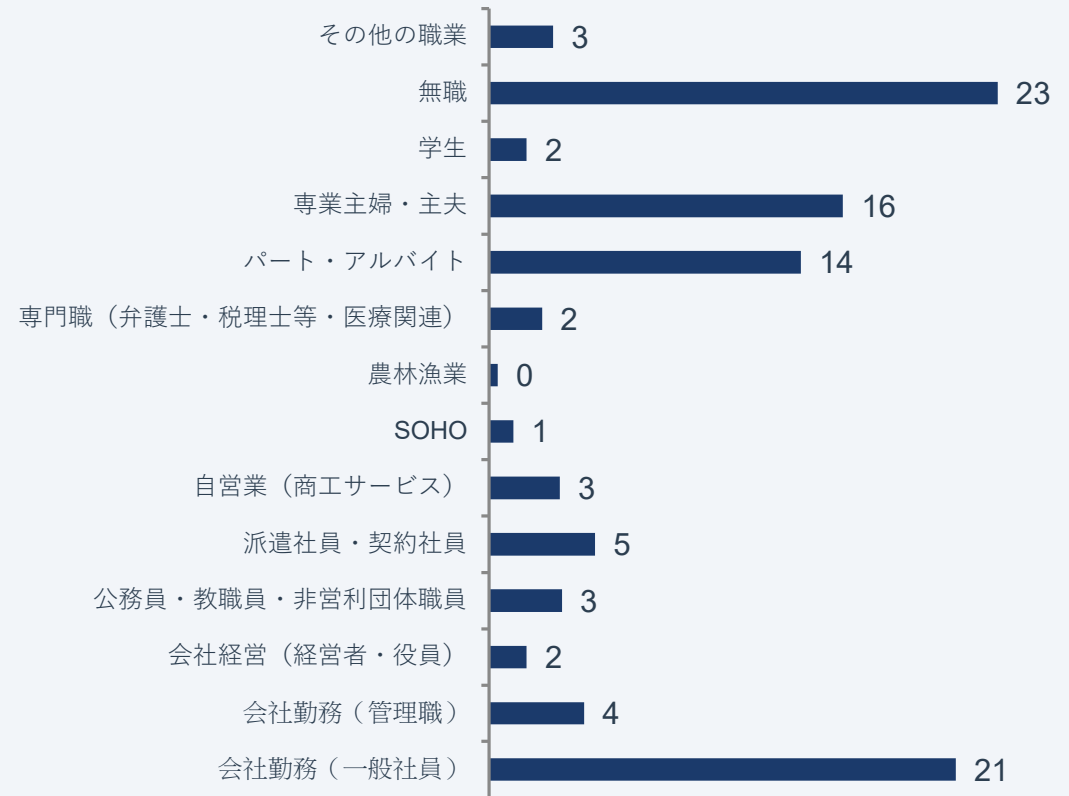
同居はしていないが子どもがいる **23.9%**
(4,723人)

子どもはいない **47.8%**
(9,453人)

設問6 | ご職業をお知らせください

Q. あなたの職業をお知らせください。

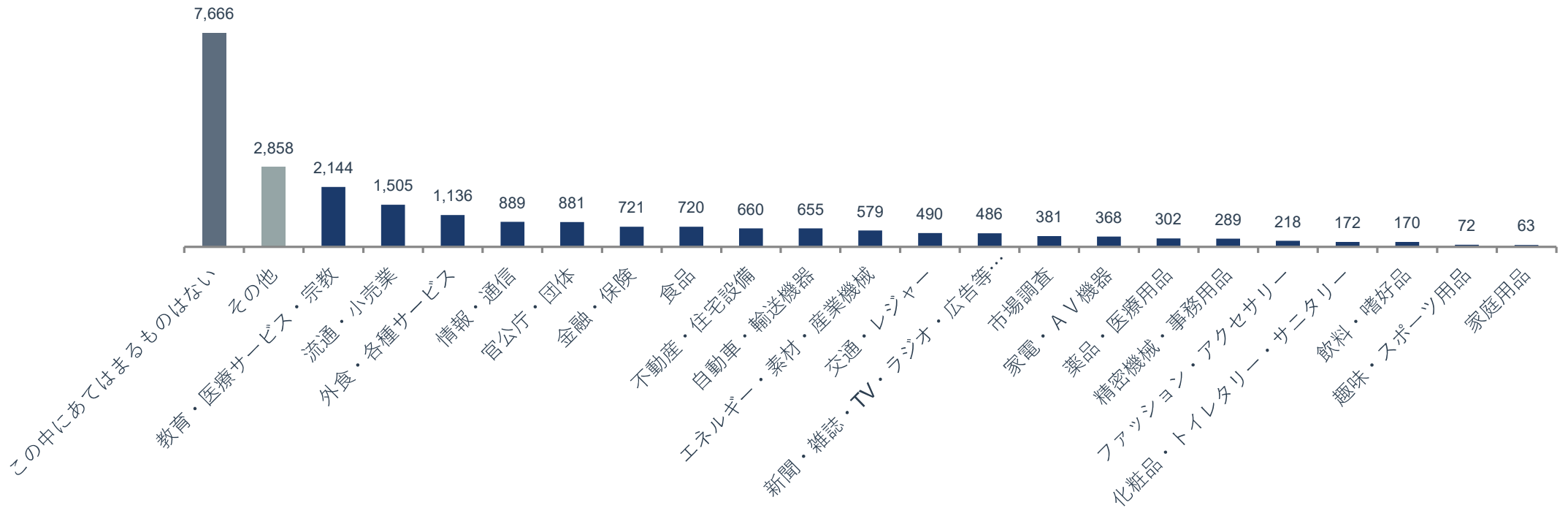
職業	回答数 (人)	割合 (%)
会社勤務 (一般社員)	4,170	21.1%
会社勤務 (管理職)	860	4.3%
会社経営 (経営者・役員)	332	1.7%
公務員・教職員・非営利団体職員	648	3.3%
派遣社員・契約社員	940	4.8%
自営業 (商工サービス)	633	3.2%
SOHO	214	1.1%
農林漁業	88	0.4%
専門職 (弁護士・税理士等・医療関連)	478	2.4%
パート・アルバイト	2,787	14.1%
専業主婦・主夫	3,168	16.0%
学生	344	1.7%
無職	4,552	23.0%
その他の職業	565	2.9%



設問7 | ご自身やご家族の勤務先業種をお知らせください

Q. あなたご自身やあなたのご家族に、次のところにお勤めの方はいらっしゃいますか。（複数回答可）

回答者数（人） ※回答数の多い順 複数回答



設問8 | 「アルコールインターロック」を知っていますか

Q. 「アルコールインターlock（アルコール検知器付き走行阻止装置）」という製品を知っていますか。

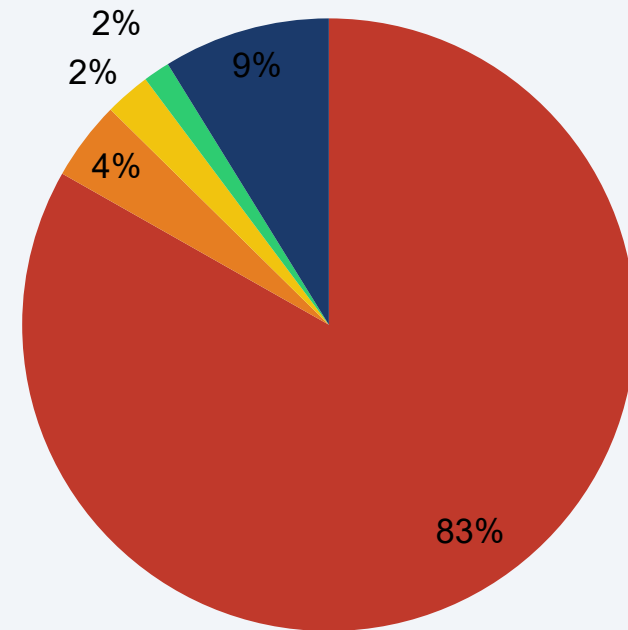
「知らない」と回答

83.2

%

(16,460人)

16,460人が「知らない・聞いたことがない」



- 知らない・聞いたことがない
- 名前のみ知っている
- 内容まで知っている（未利用）
- 以前利用（現在は未利用）
- 現在も利用している

設問9 | 飲酒運転を見かけたことはありますか

Q. 今までにお酒を飲んで運転している（運転しようとした）方を見かけたことはございますか。



設問10 | 年間約2万件の飲酒運転摘発をどう思いますか

Q. 毎年約2万人近くが、飲酒運転で捕まっています。この全国的な飲酒運転事案を見てどう思われますか。

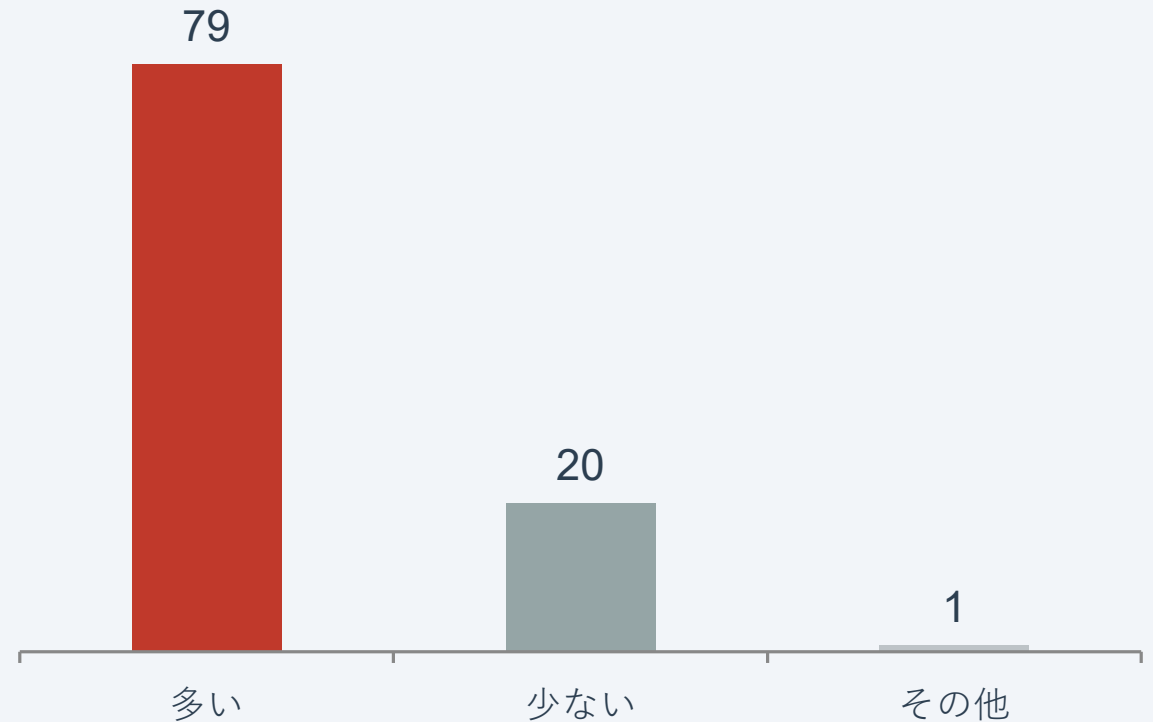
「多い」と回答

79.1

%

(15,644人)

約8割の市民が「多い」と認識



設問11 | 飲酒運転の当事者・ご家族の経験はありますか

Q. 以下の事柄について、あなたご自身またはあなたのご家族に該当するものはありますか。（複数回答可）

自分自身が
飲酒運転で指導を受けた

3.1

%

(605人)

ご家族が
飲酒運転で指導を受けた

3.2

%

(626人)

該当するものはない

87.7

%

(17,341人)

回答したくない

6.4

%

(1,266人)

自身または家族が飲酒運転で指導を受けた経験を持つ割合は合計 約6.3%（約1,231人）にのぼる。 ※複数回答のため「該当なし」「回答したくない」を合算すると100%を超える。

設問12 | 飲酒行動で悩む身近な方をご存じですか

Q. ご家族、親戚身内、知り合いの飲酒行動で悩みを抱えている方をご存じですか。

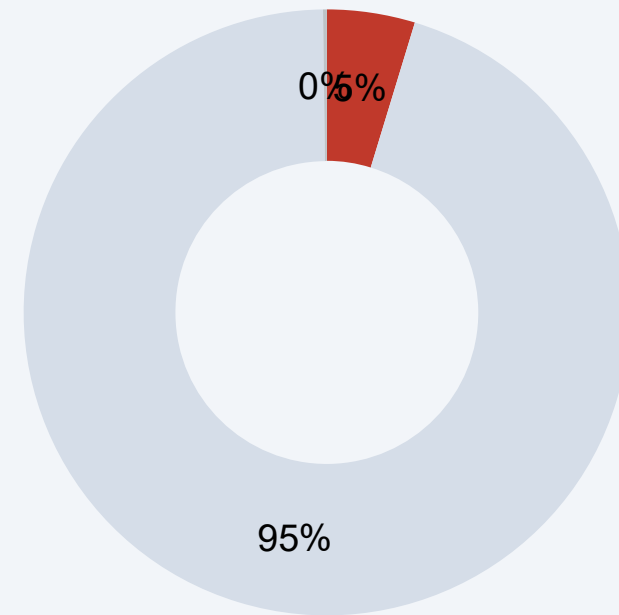
「いる」と回答

4.7

%

(923人)

923人が「悩みを抱える身近な人がある」と回答



■ いる ■ いない ■ その他

総評 調査結果のまとめ

①

【認知度】

アルコールインターロックは国民の83.2%に認知されていない

飲酒運転防止に有効な装置にもかかわらず、約9人に8人が「知らない・聞いたことがない」と回答。普及・啓発活動が急務。

②

【目撃経験】

約4人に1人（23.1%）が飲酒運転を目撃した経験あり

飲酒運転は決して遠い問題ではなく、日常的に身近に起きている問題である。

③

【問題意識】

約8割（79.1%）が年間2万件の摘発を「多い」と感じている

市民の大多数が現状を問題と認識しており、インターロック義務化・普及促進などの政策的対応への期待が高い。

④

【当事者経験】

自身または家族が指導を受けた経験者が合計6.3%

既往の経験者層への継続的なフォローアップ・再発防止支援体制の整備が求められる。

⑤

【周囲への影響】

4.7%（923人）が飲酒問題で悩む身近な人がいると回答

飲酒問題は当事者のみならず、家族・周囲の人々にも深刻な影響を及ぼしている。社会全体での取り組みが必要。

追加調査（Q1～Q15）

以下**15**の設問は

- ・ 自分自身が、飲酒運転で警察に注意・指導を受けたことがある
- ・ ご家族が、飲酒運転で警察に注意・指導を受けたことがある
- ・ ご家族、親戚身内、知り合いの飲酒行動で悩みを抱えている方をご存じですか？

この**3**点、いずれかの項目で「はい」と回答した方 **1600**人を対象としたものです。

Q1 | アルコールインターロックは飲酒行動の改善に効果があると思いますか

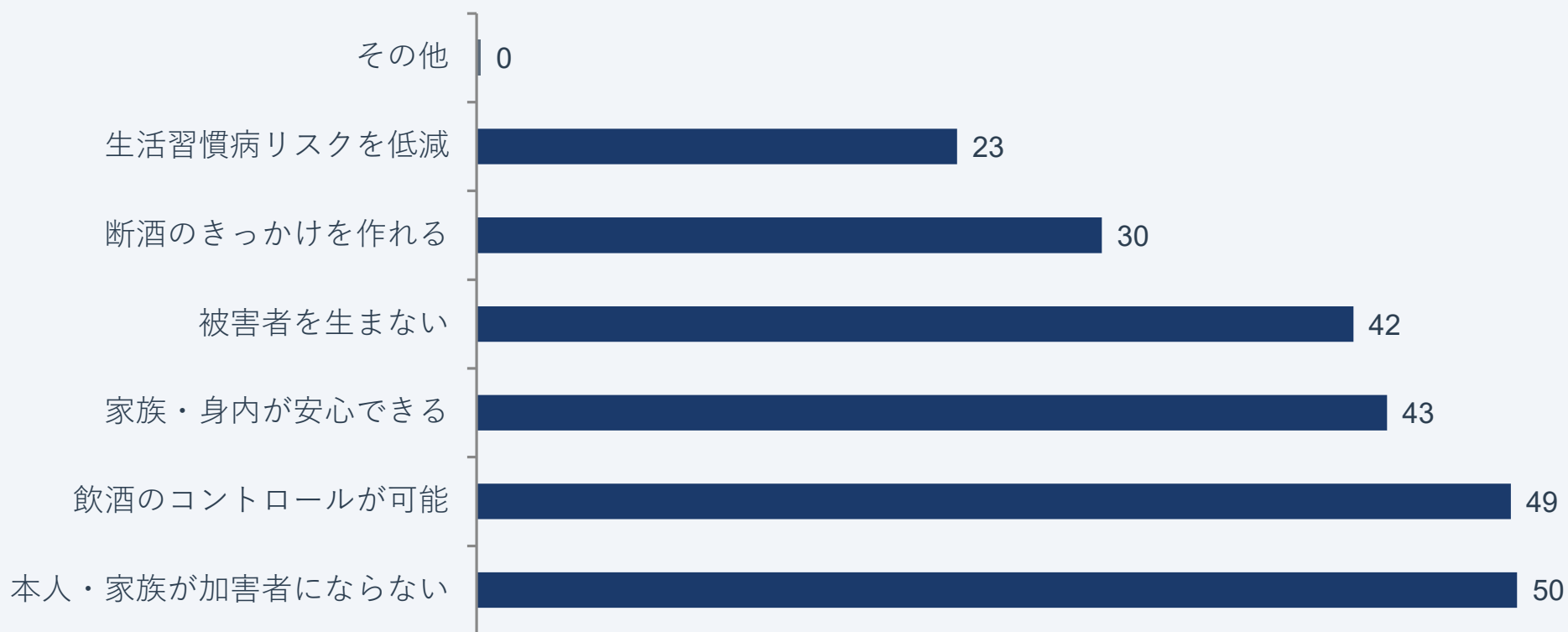
Q. アルコールインターロックは、飲酒運転を水際で防止する機器ですが飲酒行動、多量飲酒の改善に効果があると思いますか。
(SA)



約7割（68.5%）が「ある」と回答。インターロックが飲酒行動の改善にも有効との期待が高いことが示された。

Q2 | どのような点に効果があると考えられますか

Q. Q1で「ある」と回答いただいた方にお尋ねします。どのような点に効果があると考えられますか。（MA・複数回答可）



※複数回答 対象：Q1で「ある」と回答した方 n=1,096

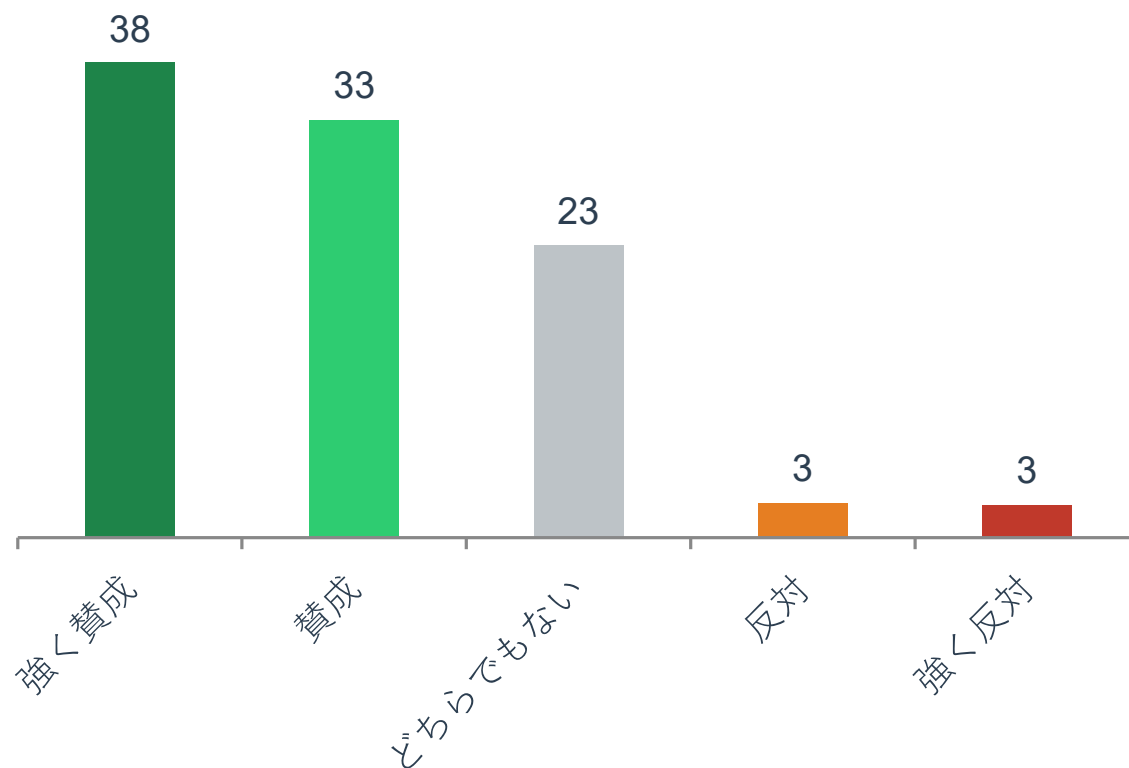
Q3 | 飲酒運転検挙者へのインターロック義務化に賛成ですか

Q. 飲酒運転の再犯防止策として、飲酒運転検挙者にアルコールインターロックの義務化をすることに賛成ですか。(SA)

賛成計 (強く賛成+賛成)

71.2
%

(強く賛成37.9% 賛成33.3%)



Q4 | インターロック装置の購入意向価格（約20万円）

Q. アルコールインターロック装置の費用は約20万円ですが、いくらなら購入されますか。「安心の対価」として受け入れられますか。（SA）

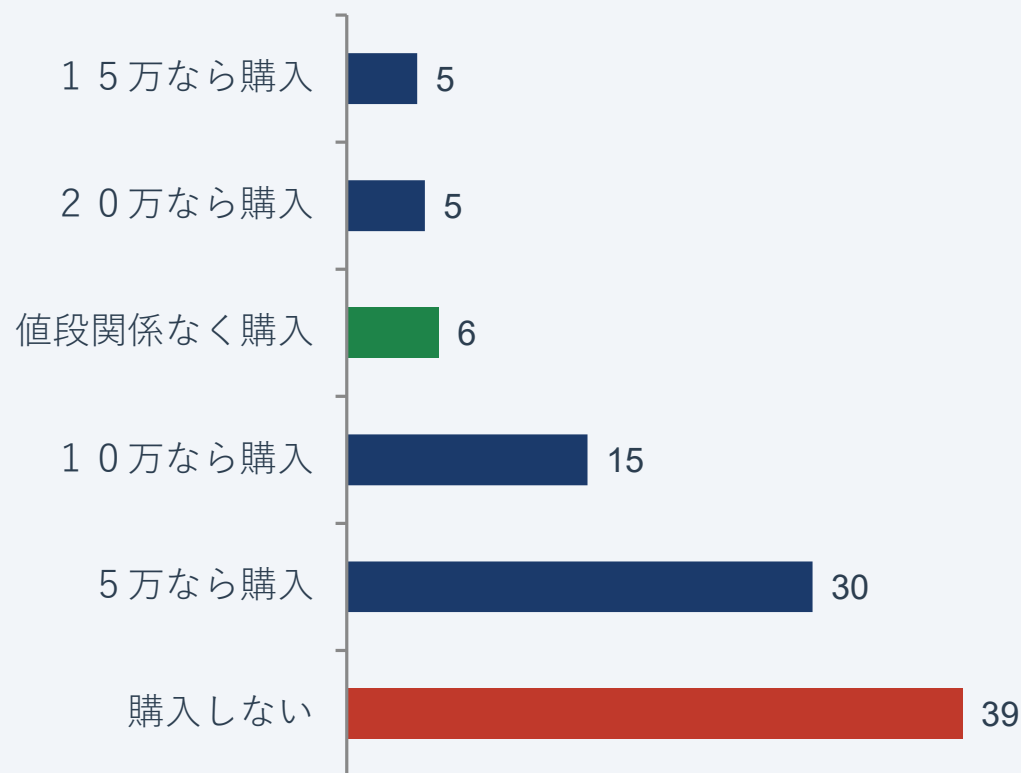
購入意向あり計

60.6%

（5万・10万・15万・20万・値段問わず 合計）

購入しない

39.4%



Q5 | 飲酒問題は「意志が弱い」ことか「病気」か

Q. 飲酒問題（依存症傾向）は、「意志が弱い」ことが原因だと思いますか、それとも「病気」だと思いますか。（SA）

意志が弱いことが
主な原因

30.1

%

(482人)

病気（依存症）
である

34.8

%

(557人)

どちらの
側面もある

35.1

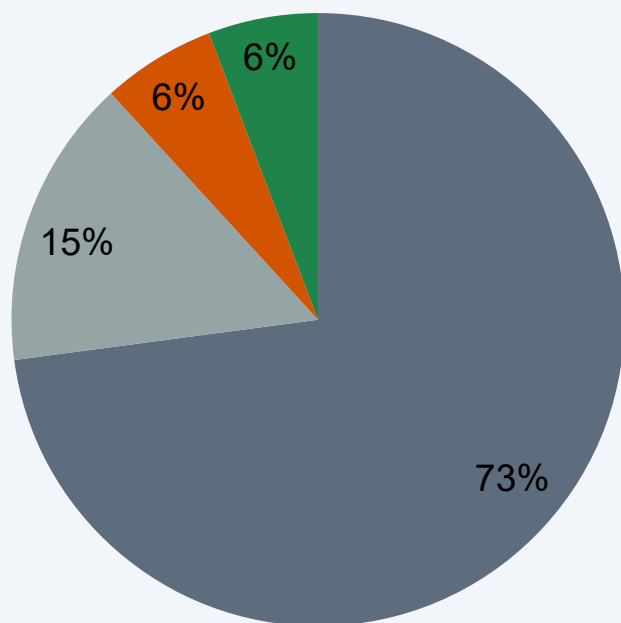
%

(561人)

「病気」または「どちらの側面もある」と回答した割合は合計69.9%。医療・支援アプローチへの理解が高まっている。

Q6 | 専門的な治療（精神科・カウンセリング等）を受けていますか

Q. 現在、飲酒問題に対する専門的な治療（精神科、カウンセリング等）を受けていますか、または受けさせていますか。（SA）



■ 受けたことはない ■ 過去に受けたが現在は未受診
■ 検討中 ■ 現在受けている

受けたことはない **72.9%**
(1,167人)

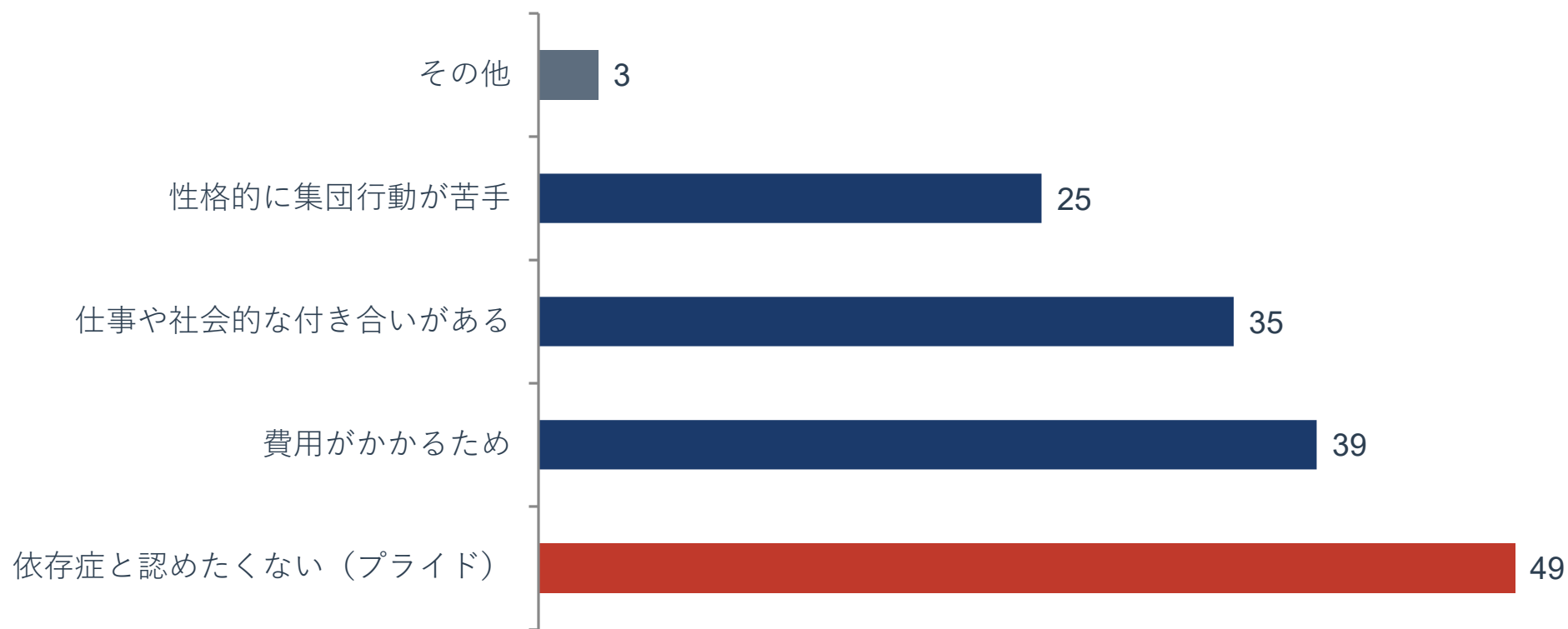
過去に受けたが現在は未受診 **15.3%**
(244人)

検討中 **6.0%**
(96人)

現在受けている **5.8%**
(93人)

Q7 | 治療や自助グループへの参加に抵抗を感じる理由

Q. 飲酒問題を抱える方が、治療や自助グループ（断酒会など）への参加に抵抗を感じる理由は何だと思えますか。（MA）



※複数回答のため合計は100%を超える

Q8 | 飲酒問題の目標は「断酒」と「減酒」どちらが望ましいか

Q. 飲酒問題の目標として、最終的には「断酒（全く飲まない）」と「減酒（飲む量を調整する）」のどちらが望ましいと考えますか。（SA）

断酒

37.8

%

(605人)

減酒

37.8

%

(605人)

どちらとも
言えない

24.4

%

(390人)

「断酒」「減酒」がほぼ同率（各37.8%）。支援策においては個人の目標に合わせた柔軟なアプローチが求められる。

Q9 | 飲酒問題・飲酒運転の悩みで精神的健康への影響はありましたか

Q. 家族やご自身の飲酒問題や飲酒運転の悩みで、精神的な健康（不安、不眠など）に影響が出ましたか。（SA）

影響あり計

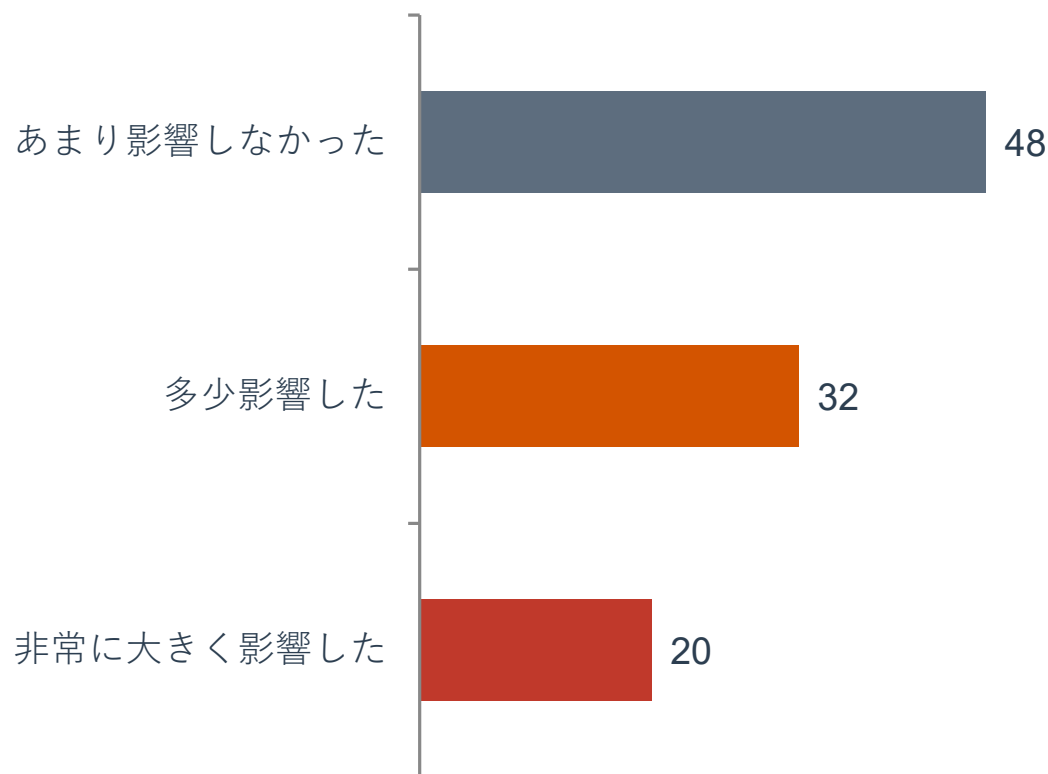
51.9%

（非常に大きく影響+多少影響）

非常に大きく影響した 19.7%

多少影響した 32.2%

あまり影響しなかった 48.1%



Q10 | 飲酒運転・飲酒問題が家族・親族間の人間関係にひびを入れましたか

Q. 飲酒運転や飲酒問題が原因で、家族・親族間の人間関係にひびが入った（暴力や離婚など）若しくは入る可能性があると感じますか。（SA）

強く感じる

33.2

%

(531人)

多少感じる

36.0

%

(576人)

あまり感じない

30.8

%

(493人)

「強く感じる」「多少感じる」の合計は69.2%。飲酒問題が家族関係に深刻な影響を与えていることが明確。

Q11 | インターロックがご家族の安心感に最も寄与すると思いますか

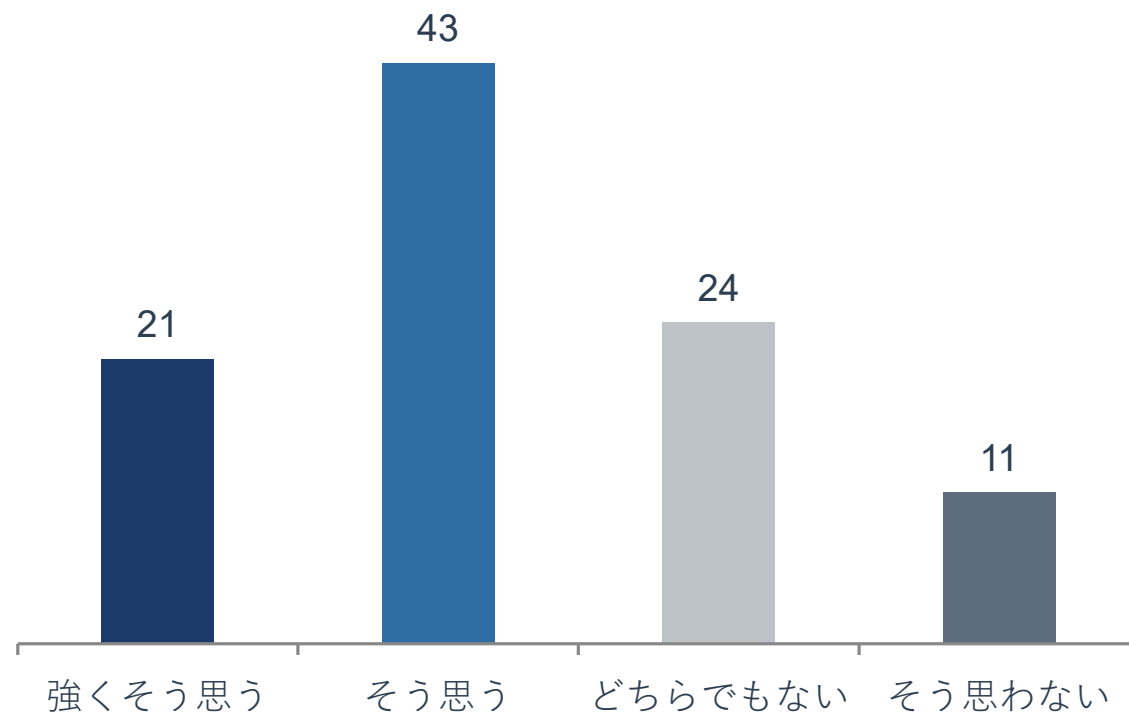
Q. 飲酒問題の解決において、アルコールインターロックのような物理的な抑止装置が、ご家族の安心感に最も寄与すると思いますか。(SA)

「そう思う」計

64.7

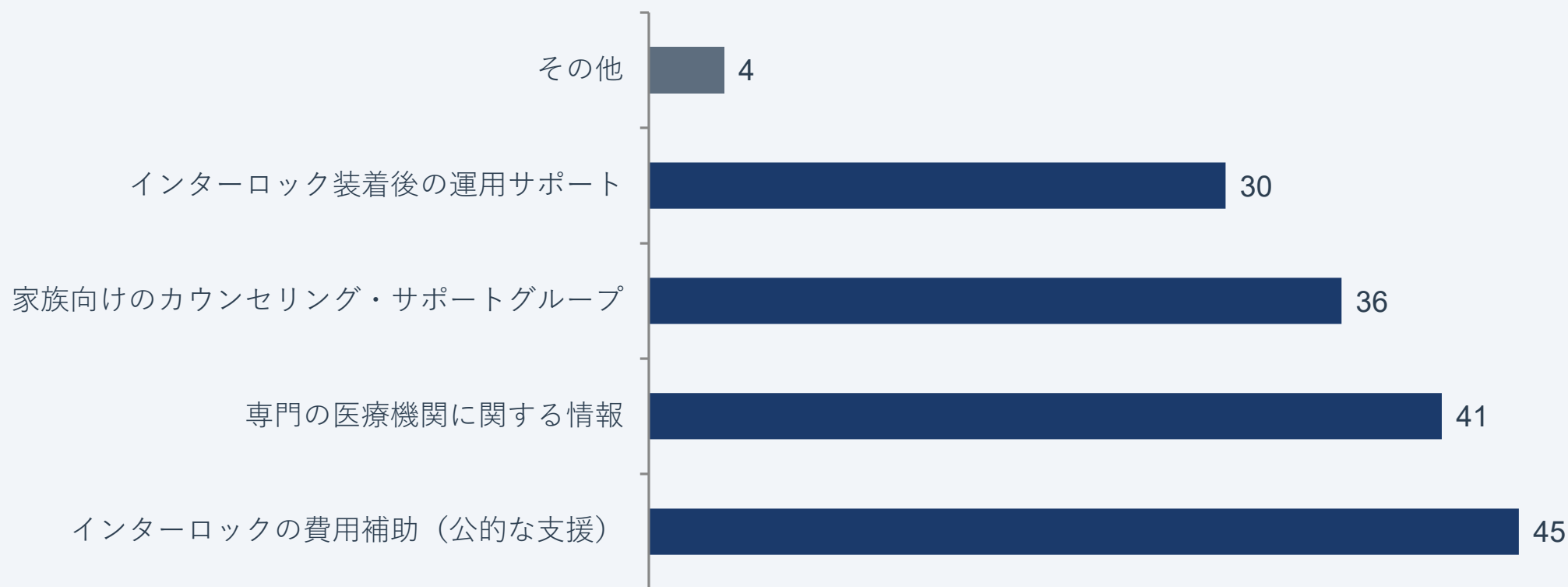
%

(強くそう思う21.3% そう思う43.4%)



Q12 | 飲酒運転再発防止策でご家族が最も必要とする外部支援

Q. 飲酒運転の再発防止策として、ご家族が最も必要としている外部からの支援は何ですか。（MA）



※複数回答のため合計は100%を超える

Q13 | 飲酒運転をした後「次は絶対にしない」と強く思いましたか

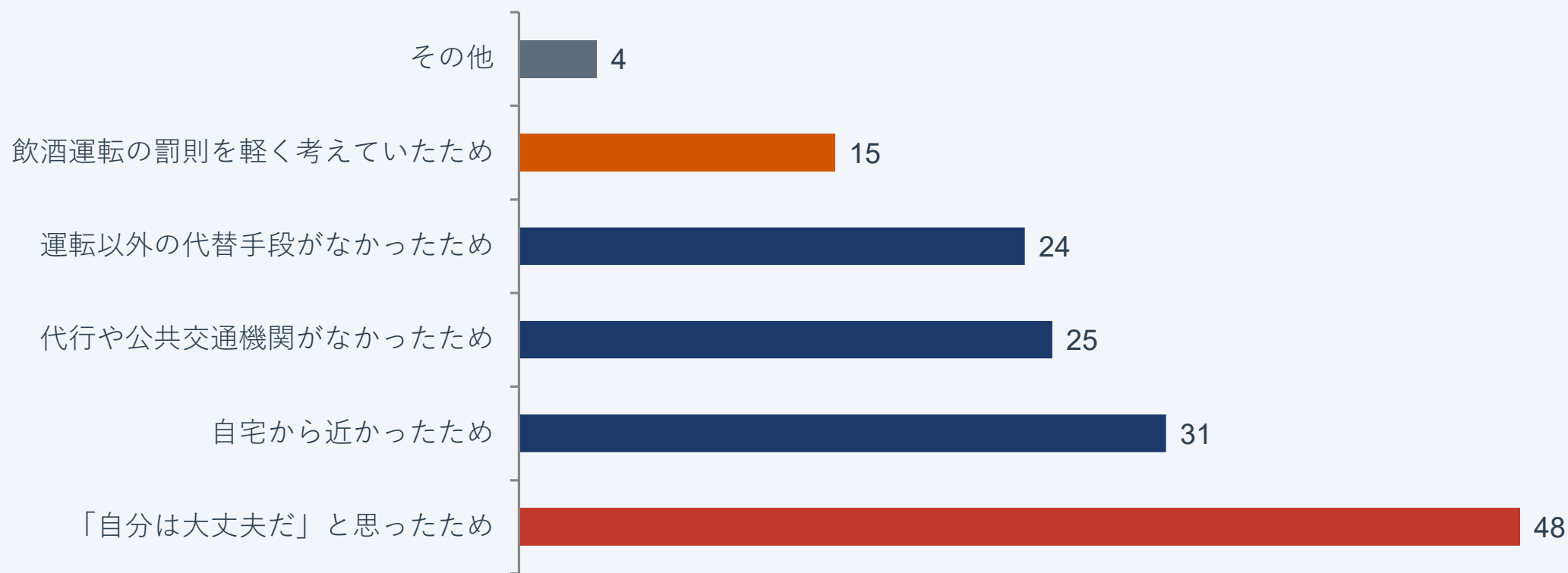
Q. 飲酒運転をした後、「次はもう絶対にしない」と強く思いましたか。(SA) ※飲酒運転で警察の指導を受けた方 n=541



「強く思った」「どちらかといえば思った」合計86.5%。しかし13.5%は再発リスクを持つ可能性があり、継続的な支援が不可欠。

Q14 | 飲酒運転をした（またはしようとした）主な理由

Q. 飲酒運転をした（またはしようとした）主な理由は何ですか。（MA） ※飲酒運転で警察の指導を受けた方 n=541



※複数回答のため合計は100%を超える 対象：飲酒運転で指導を受けた方 n=541

Q15 | 飲酒問題について、すぐにでもどこかに相談したい状況ですか

Q. 飲酒問題について、すぐにでもどこかに相談したい状況ですか。(SA)

相談するまでに
至っていない

69.8

%

(1,116人)

インターロックを
取付けたい

15.6

%

(249人)

どこかに
相談したい

14.7

%

(235人)

「相談したい」14.7%+「インターロックを取付けたい」15.6%を合わせた積極的な支援希求層は30.3%に達する。

総評 Q1～Q15 調査結果のまとめ

①

【装置の有効性】

約7割（68.5%）がインターロックに「飲酒行動改善効果あり」と期待

効果の内訳は「本人・家族が加害者にならない」49.6%、「飲酒コントロール」49.3%が上位。

②

【義務化への賛否】

飲酒運転検挙者へのインターロック義務化に71.2%が賛成

「強く賛成」37.9%、「賛成」33.3%と、市民の7割超が再犯防止策としての義務化を支持している。

③

【購入意向】

購入意向あり60.6%、最多は「5万円なら購入」29.8%

約2割が「購入しない」（39.4%）。価格補助（公的支援）への期待が最多支援ニーズ（45.1%）と整合する。

④

【精神的健康・家族への影響】

飲酒問題で家族関係に「ひびが入った・入る可能性がある」が69.2%

精神的健康への影響も51.9%が「ある」と回答。飲酒問題は当事者家族全体を巻き込む社会問題である。

⑤

【支援ニーズ】

積極的な支援希求層（相談したい＋インターロック取付け希望）は30.3%

【費用補助】45.1% 【専門医連携】41.1% 【家族支援】31.1% 【公的支援】25.0% 【公的支援強化（義務化）】21.7%